【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成20年12月11日(2008.12.11)

【公開番号】特開2007-163896(P2007-163896A)
【公開日】平成19年6月28日(2007.6.28)
【年通号数】公開・登録公報2007-024
【出願番号】特願2005-360838(P2005-360838)
【国際特許分類】
Ｇ１０Ｌ　15/08　　(2006.01)
Ｇ１０Ｌ　15/06　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ１０Ｌ　15/08　　２００Ｚ
Ｇ１０Ｌ　15/06　　４００Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成20年10月27日(2008.10.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
認識対象語の一部を表す仮説をノードとする木構造仮説のノードに対して、ルートノードから注目ノードまでのパスで表現される連接仮説の入力音声に対する尤度を、音響的な尤もらしさを表す音響スコアと言語的な尤もらしさを表す言語スコアとを用いて計算する尤度計算手段を有する音声認識装置であって、
前記尤度計算手段は、
注目ノードを共有する各認識対象語の言語スコアに基づいて前記注目ノードの言語スコア予測値を生成する言語スコア予測値生成手段と、
ルートノードから前記注目ノードの親ノードまでのパスで表現される連接仮説の尤度に前記注目ノードの音響スコアを加算する加算手段と、
前記加算手段による加算結果から、前記親ノードが注目ノードであった時の言語スコア予測値を減じたうえで前記注目ノードの言語スコア予測値を加算することで、言語スコア予測値の更新を行う更新手段と、
前記注目ノードの木構造仮説における位置に応じて、前記更新手段による前記言語スコア予測値の更新を打ち切る更新停止手段と、
を含むことを特徴とする音声認識装置。
【請求項２】
前記更新停止手段は、前記注目ノードがリーフノードである場合に、前記更新手段による前記言語スコア予測値の更新を打ち切ることを特徴とする請求項１に記載の音声認識装置。
【請求項３】
前記更新停止手段は、前記注目ノードの階層が、あらかじめ定められた数の階層に到達した場合に、前記更新手段による前記言語スコア予測値の更新を打ち切ることを特徴とする請求項１に記載の音声認識装置。
【請求項４】
前記言語スコア予測値生成手段は、前記注目ノードを共有する各認識対象語の言語スコアのうち最大のものを、前記注目ノードの言語スコア予測値とすることを特徴とする請求

項２または３に記載の音声認識装置。
【請求項５】
認識対象語の一部を表す仮説をノードとする木構造仮説のノードに対して、ルートノードから当該階層のノードまでのパスで表現される連接仮説の入力音声に対する尤度を、音響的な尤もらしさを表す音響スコアと言語的な尤もらしさを表す言語スコアとを用いて計算する尤度計算工程を有する音声認識方法であって、
前記尤度計算工程は、
前記注目ノードを共有する各認識対象語の言語スコアに基づいて前記注目ノードの言語スコア予測値を生成する言語スコア予測値生成工程と、
ルートノードから前記注目ノードの親ノードまでのパスで表現される連接仮説の尤度に前記注目ノードの音響スコアを加算する加算工程と、
前記加算工程での加算結果から、前記親ノードが注目ノードであった時の言語スコア予測値を減じたうえで前記注目ノードの言語スコア予測値を加算することで、言語スコア予測値の更新を行う更新工程と、
を含み、
前記更新工程による前記言語スコア予測値の更新は、前記注目ノードの木構造仮説における位置に応じて打ち切られることを特徴とする音声認識方法。
【請求項６】
コンピュータを、請求項１乃至４のいずれか１項に記載の音声認識装置として機能させるためのプログラム。